

膀胱瘻造設を受けられる患者様へ

秋田大学医学部 泌尿器科

何らかの原因(前立腺肥大症、神経因性膀胱、腫瘍、外傷、炎症、手術など)で尿道が閉塞したり、膀胱の収縮力がなくなったりすると、まったく尿を出すことができない状態(尿閉)になることがあります。著しい苦痛をとめない、生命をおびやかす可能性もあるため、すみやかにこの状態を改善する必要があります。一般的には尿道より尿を出すための管(尿道カテーテル)を入れますが、それが難しい場合には膀胱瘻として、尿を出すための管(膀胱瘻カテーテル)を下腹部より直接膀胱に挿入する必要があります。

治療内容

- 治療を行う前に点滴を開始します。感染予防のため、抗生剤の点滴や内服を行う場合があります。
- 治療は病棟もしくはレントゲンの部屋で仰向けで行います。治療時間は 30 分程度です。
- 下腹部(恥骨上縁より 1~2cm)に局所麻酔をした後、専用のセットを用いカテーテルを挿入します。
- 治療終了後は約 3 時間程度のベット上安静が必要です。
- 以下のような場合には膀胱瘻カテーテルが挿入できない場合があります。
 - 1) 膀胱の拡張が不十分で針での穿刺が困難な場合。
 - 2) 患者さんの状態により治療に十分な体位がとれない場合。
 - 3) 膀胱の変形が著しい場合。

このような場合には、後日再度治療を行うか、もしくは別の治療を行う必要があります。

治療の合併症

- 1) 出血:膀胱に針を刺すことにより、膀胱からのわずかな出血(特に血尿)はすべての方にみられます。通常は問題ありませんが、程度が強い場合は輸血や追加の処置が必要になることがあります。
- 2) 臓器の損傷:治療時の操作により周囲の臓器(腸、腹膜、血管、尿管など)に傷がつくことがあります。程度により追加の処置や開腹手術を行うことがあります。このような場合は極めて稀です。
- 3) 術後、尿路感染症により発熱が生じることがあります。

年 月 日

上記について説明を行いました。 氏名

上記について説明を受けました。 氏名